

アカガイ

分類：フネガイ目 フネガイ科 (翼形亜綱 二枚貝綱)
 学名：*Scapharca broughtonii*
 英名：Broughton's ark

北海道以南から九州にかけての、特に内湾で細泥の10~15mのところの生息する。殻長12cm、高さ10cm位で、殻の形は側面から見ると略々四辺形。左右に良く膨れ、前方から見るとハート形で、左殻は右殻よりやや大きい。二枚の殻は背線に一直線に並び、細かい歯で咬み合う。殻表は艶のない白地で、暗褐色のドロード状の殻表に被われ、殻頂から腹縁にかけて42本内外の畝があって、各畝は角張りその間は浅い溝となっている。血液中にヘモグロビンを含むので身の肉は赤黒く貝類では珍しい。

リュウキュウサルボウガイ (*Anadara* sp.) およびサルボウガイ (*Scapharca* sp.) はアカガイに良く似ているが、畝の間隔が粗くて身の肉も白っぽく、風味が乏しい。東京の魚市場ではアカガイを本玉、サルボウガイをバチ (場違い) と呼んでいる。



アカガイ



コンドルノハ



リュウキュウサルボウガイ
 の一種
Anadara Grandis



コンドルノハ
 フネガイ科
Anadara zebra

イガイ

分類：イガイ目 イガイ科 (二枚貝綱 翼形亜綱)
 学名：*Mytilus coruscus*
 英名：Hard-shelled mussel

全世界の暖海に広く分布し、日本では北海道南部から九州にかけての外洋に面した潮流の速い岩礁地帯に重なり合うような群団を形成して生息する。丸味を帯びた三角形の黒紫色の二枚貝で、殻は厚くその表面は同心円の成長線が刻まれる。内面は紫紅色や緑色の混った白色で、真珠光沢があり黒褐色の縁取りがある。蛋白質の糸状の足糸で岩礁や真珠筏、棧橋などに付着する。食餌は珪藻などを捕食する。足糸が目立つため、ヒメガイ、ニタリガイ、カラスガイなどと呼ばれる。同属にムラサキイガイ *M. edulis* (全世界の暖海)、チレナイイガイ *M. edulis galloprovincialis* (地中海海域) がある。



チレナイイガイ



イガイ



ミドリイガイ
M. viridis
 (perna viridis)



ヨーロッパイガイ
M. edulis



ミドリイガイ